

第3学年体育科学習指導案

日時 平成21年11月20日(木) 5校時
児童 3年3組 男15名 女15名 計30名
指導者 村田 慶
場所 久慈市立久慈小学校 体育館

研究課題

満足感、達成感を味わうことができる授業
～類似運動とグループでのかかわり合いの工夫を通して～

1 単元名 「めざせ とびばこ名人」 (A 基本の運動 c 器械・器具を使つての運動 跳び箱)

2 単元について

(1) 児童観

本学級は、明るく活発な児童が多い。休み時間になると外や体育館で遊ぶ姿が多く見られる。体育の学習にも意欲的で、アンケートによる事前調査では体をたくさん動かせるという理由から、ほとんどの児童が体育の学習を好きだと答えている。また、グループで簡単な作戦を考えてゲームに取り組んだり、競争したりすることを通して、友達とのかかわり方を学んできた。しかし、自分本位の考えで行動する場面も見られ、友達とうまくかかわれない児童もいる。

第2学年までに児童は、跳び箱を使って支持でのまたぎ乗りやまたぎ下り、跳び上がりや跳び下り、低い跳び箱での横跳び越しなどの運動遊びや、低学年用跳び箱3段を支持でまたぎ越すことを経験している。児童の多くは腕支持や重心移動などの感覚を身に付けているが、一つ一つの動きが十分に定着していない児童も見られ、習得に個人差が見られる。その理由として、腕支持が不十分であったり、重心移動がスムーズにできていなかったりなど、自分がどのように動いているのかわからないまま試技していることが挙げられる。そのため、自分の動きを実感できるよう、お互いに見合い、その様子を伝え合いながら運動させる必要があると考える。

事前のアンケートでは、ほとんどの児童が跳び箱を使った学習に意欲的である。その主な理由は、「跳ぶのが楽しい」、「跳べたとき嬉しい」というものであった。跳び箱に消極的な児童の理由は、「跳び箱の上から落ちそうで怖い」、「またぎ越しができない」というものであった。これらの実態から、どの児童にも跳び箱の基本的な動きや感覚を身に付けさせることと、友達とのかかわり合いから自分の動きの高まりを実感させることができれば、それらが技能の向上につながり、運動に対する満足感や達成感が得られると考えている。

(2) 教材観

学習指導要領の第3学年・第4学年の「A 基本の運動」の中の器械・器具を使つての運動の内容には、「マット、鉄棒、跳び箱などの器械・器具を使つて回転、懸垂、バランス、跳び越しなど自己の体をいろいろに動かして、各種の動きに取り組む楽しさを味わうことができるようにする。」とある。

「跳び箱」は、跳び箱を使って支持でまたぎ越しや支持でのかかえ込み跳び越し、跳び箱の上での前こりなど、各種の動きに取り組む楽しさや自分の体を自由に動かした喜びを味わうことができるようにする個人的な運動である。できる、できないがはっきりした運動だが、難易度、美しさ、雄大さ、安定性などを考えながら、多様な跳び方を行うことに楽しさがある。どの児童にもできるようにさせるために、跳び箱の基礎となる動きや感覚を身に付けさせること、恐怖心を取り除いたり、技のポイントを簡単に習得できたりするような場を設定することが重要な役割を果たす教材である。

第4学年からの「器械運動」につなげることも考慮し、多様な跳び方を経験させ、それぞれの技のポイントを体感させる必要がある。また、友達と協力しながら、技のポイントを見つけたり、教え合ったりしていくことで、友達とともに運動する楽しさを味わわせていきたいと考える。

【児童から見た特性】

- ・ いろいろな高さや向きのとび箱をとび越すことに挑戦するのが楽しいと感じる運動である。
- ・ できなかった跳び方ができるようになったり、より高いとび箱がとび越せるようになったりするとき達成感を味わえる運動である。
- ・ 落下した痛みや高さに対する恐怖心から苦手意識をもちやすい運動である。
- ・ 苦手な児童にとっては意欲をもちにくい運動である。

(3) 指導観

児童の実態と教材の特性から、以下の点に留意して指導していくこととする。

- ・ 類似運動では、逆さ感覚や腕支持感覚、重心移動感覚、回転感覚など、跳び箱の動きに必要な感覚を身に付けることができるようにする。単元を通して取り組み、動物歩きやかえるの足打ち、ウサギ跳び、ゆりかご、前ころがりなど、楽しみながら基礎感覚作りができるようにしていきたい。
- ・ 示されたポイントについて見合い、どのような動きをしていたか伝え合うようにする。お互いにできた喜びを共感したり励まし合ったりしながら運動に取り組み、よさを友達に認めてもらうことで技能の高まりを実感できるようにする。そこから満足感や達成感を味わうことができるようにしていきたい。
- ・ 1 単位時間を2つに区切って構成し、動きを高めながら跳び箱の楽しさを感じることができるようにする。前半（跳び箱ローテーション）では、どの児童にも跳び箱を使って運動する楽しさを味わわせながら、いろいろな跳び方を経験できるようにする。そのために、跳び箱やマット、エバーマットなどを用いて、高さや横幅などを変えた場を設定する。また、運動場面では前時までの学習内容を想起させて、またぎ越しやかかえ込み跳び越し、台上での前ころがりに取り組みさせる。後半の課題解決場面では、共通の課題を設定し、動きを高めることができるようにする。技のポイントを明示し、それを意識して運動できるように友達に動きを見取らせたり、様々な場や用具を準備したりして、課題解決に取り組みさせていきたい。また、全体を通して安全面に留意し、マットを使って児童の恐怖心を和らげるよう配慮する。

3 目標

運動への関心・意欲・態度	・跳び箱運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と励まし合いながら運動しようとする。 ・協力して用具の準備や後始末をし、安全に気を付けようとする。
運動についての思考・判断	・技の練習の仕方を知り、自分の力に応じた練習の場を選んでいる。 ・踏み切りや着手など基本的な技のポイントを知り、自分の力に合った課題を選んでいる。
運動の技能	・跳び箱を使って支持でまたぎ越しやかかえ込み跳び越し、跳び箱の上での前ころがりをする事ができる。

4 指導計画（全6時間）

時 分	1	2	3	4（本時）	5	6
15	オリエンテーション ・学習の進め方 ・用具の準備 ・試しの跳び箱運動	準備運動，類似運動				
30		さまざまな場で、技に取り組む				発表会
40		支持での またぎ越し	支持での かかえ込み 跳び越し	跳び箱の上での前ころがり		
		学習の振り返り				全体振り返り

5 本時の指導

(1) ねらい

- (思考・判断) ・気づいたポイントについてアドバイスし合っている。
・自分の力に合った練習の場を選んでいる。
- (技能) ・腰を引き上げ、跳び箱や台の上での前ころがりをする事ができる。

(2) 展開 (4時間目／6時間中)

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価	場・用具
導入 8分	1 準備運動 2 類似運動 ・ウサギ跳び ・手押し車 ・前ころがり ・かえるの足打ち など	・事前に児童の健康観察や服装点検を行っておく。 ・手首、足首などを十分に伸ばすようにする。 ・主運動にかかわる動きを取り入れ、跳び箱運動の基礎感覚作りを行う。	全体 ・マット
展開 30分	3 学習内容の確認① <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;"> 今できるわざを、さらにみがこう。 </div> 4 跳び箱ローテーション ・支持でまたぎ越し、支持でのかかえ込み跳び越し、跳び箱の上での前ころがりにローテーションしながら取り組む。 5 学習内容の確認② <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;"> 前ころがりの腰の高さについて考えよう。 </div> ・跳び箱の上で前ころがりを行っている図を見ながら、腰の高さについて話し合う。 6 跳び箱や台の上での前ころがりの練習 ・跳び箱1段、2段、3段 ・跳び箱の1段目をつなげる ・エバーマットの上にマットを敷く ・マットを重ねる ・マットの上でゆりかごや前ころがり	・これまでに学習したことを生かしながら、自分のめあてに沿って運動に取り組ませる。 ・前時までに示されたポイントを基に、どのような動きをしていたか伝えさせるため、試技は横から見させる。 ・跳ぶ前と跳んだ後に合図を出し合い、安全に運動することができるようにさせる。 ・前時までのポイントを生かした動きができていのかどうかを見取り、児童の課題に合った場を選択できるよう支援する。 ・腰の高さに注目させ、腰を高く引き上げることの大切さに気づかせる。その際、強い踏み切りが必要なことにも触れる。 ・台上をスムーズに回るために、体の丸まりについても伝える。 ・示されたポイントについて褒めたり、アドバイスしたりできるよう、友達の動きを見取らせる。 ・マットやエバーマット、跳び箱の1段目などを用いて、幅が広い場から徐々に跳び箱の上での試技に慣れるような場を設定する。 ・マットを跳び箱にかぶせたり、周りに敷いたりして、児童の恐怖心を和らげるようにする。 ・それぞれの場を回りながら、強く踏み切れているかどうか、腰を高く引き上げることができているかどうかを見取り、児童の課題に合った場を選択できるよう支援する。 ◇気づいたポイントについてアドバイスし合っている。(発言・観察) ◇自分の力に合った練習の場を選んでいる。(観察) ◇腰を引き上げ、跳び箱や台の上での前ころがりを行うことができる。(試技・観察)	・移動黒板 グループごとに3箇所 ・跳び箱 ・マット ・エバーマット ・ロイター板 全体 ・移動黒板 ・分解図 自分の課題に合った場 ・跳び箱 ・マット ・エバーマット ・ロイター板
終末 7分	7 整理運動 8 学習の振り返り	・体をほぐすように、大きくゆっくり行うようにさせる。 ・友達とのかかわり合いから気づいたことを交流させ、お互いによさや伸びを認め合うことで満足感を得られるようにし、次時への意欲付けを図る。	

